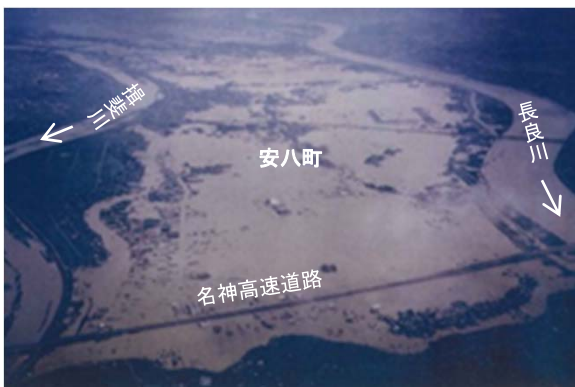


水郷地帯の町 ^{あんぱちちょう}‘安八町’ と治水事業について熱い議論！

■後世に教訓活かせ！ 安八水害

長良川と揖斐川に挟まれた水郷地帯「安八町」。大小河川がもたらす水の恵みは地味豊かな土壌を育む一方、洪水という恐ろしい災禍をもたらしてきました。その中で、一級河川である長良川堤防が決壊した、昭和51年9月の安八水害は、岐阜県史上最悪の水害となり、関係者に大きなショックを与えました。その後、河川改修工事が集中的に進められ、治水安全度は飛躍的に向上しましたが、近年の異常気象とも言える集中豪雨等が全国各地で発生している状況を見ますと、治水事業の重要性は益々高まっていると言えます。



昭和51年9月12日洪水による浸水状況（安八水害）

■安八町と意見交換会を開催！

11月12日（火）、国土交通省木曽川上流河川事務所は、安八町役場において、安八町の堀町長をはじめとする町幹部職員らと、揖斐川、長良川における、今後の治水事業について意見交換を行いました。

冒頭、堀町長より、「安八町は昭和51年9月の長良川の破堤により激甚な被害を被るなど、昔か



安八町長 堀 正



木曽川上流河川事務所長
浅野 和広

ら、水との戦いの地域である。最近の短時間における集中豪雨が頻発しており、9月4日には岐阜市や大垣市でも時間100ミリの豪雨による浸水被害が発生しており、安八町も例外ではない状況である。安八町においても防災への備えが重要であり、引き続き、防災体制に万全を期していきたい」と挨拶がありました。

意見交換会では、特に揖斐川での護岸整備や河川敷の樹木伐採について早期整備の要望を受けました。これらの対応については、「木曽川上流河川事務所でも早期の対応が必要と認識しており、予算の都合もあるが、早期に対応して参りたい」と回答しています。



意見交換会の様子。（安八町役場内の会議室）